



# 関西湾岸SDGsチャレンジ2024スタート!

## 大学生と高校生が まちの課題を解決!

甲南大学の大学生と5つのまちで学ぶ高校生が、地域の課題を探り、解決策を一緒に考える「関西湾岸SDGsチャレンジ」(主催:甲南大学、朝日新聞社メディア事業本部、後援:神戸市、堺市、和歌山市、徳島市、岡山市)が今年もスタートします。皆が安心して暮らせる社会の実現をめざして、新しい学びの形を実現。年を追うごとに充実するプロジェクトの魅力をご紹介します。(SDGs:持続可能な開発目標)



### #01

#### 神戸・堺・和歌山・徳島・岡山から高校生が集結!

グループワークで話し合う



関西湾岸SDGsチャレンジのテーマは「地域の課題をSDGsの視点で考える」。神戸、堺、和歌山、徳島、岡山の5市の高校生と甲南大学の学生が7月に甲南大学に集い、SDGsや取材方法についての講義を受け、自治体ごとに編成したチームでのグループワークから始まる。大学生と地元高校生が1チームになって活動するのが特徴。大学生は論理的思考やプレゼン

方法などを高校生に伝えることで自身の理解も一層深まり、高校生は地元寄り添った意見に加えて、大学の知的な学びの世界を知ることができる。協働作業を通じて高い教育効果が得られるのが利点だ。

### #02

#### 甲南大学生と高校生が自治体の課題に大接近!

大学生と高校生からなるチームは、各市の担当者から提示された地域課題に対して、持続可能な解決策を考えていく。課題は街づくり、人口減少、観光、働きやすさなど多岐にわたる。大学教員が指導者(メンター)として助言する中、知恵を絞って解決策を考案。フィールドワークと後の討議を経て、11月に甲南大学で開催する「SDGsチャレンジアカデミー」で発表し、各市から講評を受ける。

2018年にスタートした関西湾岸SDGsチャレンジは今年で7年目。各市からは「年々取り組みが進化している」「自治体だけでは思いつかない素晴らしい提案がある」と高い評価を得ている。近年はプロジェクト終了後に、学生たちが市長らに活動成果を報告する場ができるなど、活躍と発信の場が広がっている。



実際に各市を歩いて調査

### #03

#### 朝日新聞社も協力フィールド調査を徹底!

アンケートなども実践



地域課題を肌で感じ、現地の人々から学べるのが各地で実施するフィールドワークだ。市職員や朝日新聞記者のサポートを受けながら、大学生と高校生が課題解決を考える上で必要な人、例えばNPOや商店街、企業などの関係者ら取材する。現場で課題に向き合っている人々から話を聞くと、学生たちの学ぶ意欲は一気に高まっていく。地域社会に足を踏み入れ、さまざまな人たちとの出会いの中で現実を見聞きて悩み、考えることで大きく成長する関西湾岸SDGsチャレンジが今年もまもなくスタートする。

### Fieldwork Report 2023

昨年度の各地での活動をご紹介します。



### Experience Story

### 学生の豊かな発想と行動力 新しい未来をひらく

「関西湾岸SDGsチャレンジ」の昨年の成果について、担当の岡村特任准教授と学生2名が語り合いました。

**岡村** 私は関西湾岸SDGsチャレンジの初年度からメンター教員を務め、今は徳島市を担当しています。昨年の活動を振り返ってください。

**田中** 高校生の時に気候変動や男女格差問題などについて英語でプレゼン、ディベートをしていく中で、SDGsに興味を持ちました。このプロジェクトは、フィールドワークをして課題解決策を自分たちで提案できるところに魅力を感じ応募しました。

**中川** 大学1年の時に甲南大学地域連携センターの「とっとりキャリア教育学生プロジェクト」に参加したことがあり、サプリーダーとして、チームをうまくまとめることができなかったことが心残りでした。チームワークで目標達成することに再挑戦したいと思い、このプロジェクトに参加しました。

**田中** 私が担当したのは神戸市。大学生と高校生が最初に集まるグループワークで、神戸市が掲げる子育て

支援策の課題として、子どもの「経験やコミュニケーション不足」について議論しました。神戸市は全国で2番目に児童館が多いと聞き、児童館を活用して解決できないか、課題を明確にして調査・取材しました。児童館をほとんど利用しない中高生が多様な催しを開催することで、子どもたちが多様な体験や価値を得る支援を神戸市に提案しました。



インタビューカで優れた企画を提案

甲南大学経済学部3年 中川 輝人さん

**中川** 私は徳島市を担当し、岡村先生にご指導いただきました。このプロジェクトで意識したのは、問題分析や企画提案に繋がる話をフィールドワークでいかに引き出すかということ。「それはなぜですか」と深掘りすることを心がけ、1泊2日での5カ所の調査の中でもワーケーションできる宿泊施設の代表から想定以上の話を引き出すことに成功。自然の中で心豊かに働く姿に感動し、幸せに生きる意味を考えさせられました。

**岡村** 調査に慣れないうちは一問一答で終わりがち。本当に面白い話はその後に出てきますから、質問の回答の後に、さらに質問ができるようにみんな頑張ってくれました。チーム全員で粘って取り組み、子どもにも親しみやすい持続可能なツアーを地域の

#### 将来のキャリアにつながる学び

甲南大学法学部3年 田中 みゆさん

と作る提案をしてくれたのは立派でした。**中川** 1年の時に感じたチームワークの力は達成できました。持続可能な取り組みが必要なSDGsを深く考えるようになり、将来は地域創生に関わる仕事に就きたいと思っています。全学生に参加してもらいたいくらい良いプロジェクトです。**田中** グループワークで意見を交換したり、フィールドワークに行き行って自分で見聞きたことからは新しいものを作ったりする活動にワクワクしました。経験で得たことを、外に向けて発信するクリエイティブな仕事をしたい気持ちが高まりました。これからも地域課題に主体的に向き合っていきたいです。**岡村** 参加する学生たちは個人としてはもちろん、チームとしても驚くほど成長します。ある学生は短期間のフィールドワークに懐疑的でしたが、現地に行く想定外の状況を目の当たりにしてディスカッションの中身が一変し、現場で学ぶ意義を深く理解していました。今年の徳島市のテーマは災害・防災。特に今、問題意識が高い震災について、高校生・大学生がともに学ぶ相乗効果を期待しています。(文中敬称略)

### Professor's Message

#### 取材現場での人との出会いから学ぶ 解決策の提案が自治体から高評価

関西湾岸SDGsチャレンジは、5つの自治体の課題解決に向けて、大学生と地元高校生が協働で知恵を出し合うPBL(問題解決型学習)です。甲南大学が自治体と結び連携協定に基づき、2018年から実施しています。これまでの積み重ねから自治体の課題がより見えやすくなり、成熟期に入ったのを感じます。型にはまった活動をするのではなく、フィールドワークの現場で起こる偶発的な人との出会いなど予想外の出来事も学びと捉え、自分たちで考えることを重視しています。特に現場の声を集めることを大切にしており、地元で強い高校生と取り組むことで調査に深みが出ます。



甲南大学 学長補佐 社会連携機構長 地域連携センター所長 文学部社会学科 教授 阿部 真大氏

実際に、学生たちの提案に対する自治体の高評価にはいつも驚いています。若い人の新しい視点が求められているのでしょう。一昨年には徳島市長に、昨年度は堺市のセミナーで活動の成果を報告する機会にも恵まれました。また、このプロジェクトは他の高校の探究学習のモデルケースにもなり始めています。7年目となる今年、学生たちはどこに注目して課題解決策を提案してくれるのか、今から楽しみです。

### 2025 大阪・関西万博 共創チャレンジに参画!

2025年4月に開幕する大阪・関西万博。甲南大学は公益社団法人2025年日本国際博覧会協会が取り組む「TEAM EXPO 2025」プログラム/共創パートナーに参画している。万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」は、大学の建学理念「人物教育」「共創互助」にも通じ、共創チャレンジをともに育てていく。

## 甲南大学 OPEN CAMPUS 2024

ひろがびる世界。見つかう未来。つながる甲南

実施日時(事前申込制) 夏期 8/3 SAT 8/4 SUN 秋期 9/15 SUN 7月中旬申込受付開始

### 2026 START

### KONAN U. 進化型理系

## KONAN UNIVERSITY 進化型理系始動

甲南大学の理系が進化。